

国語

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
中比、市正時光と云ふ笙吹きありけり。茂光と云ふ箏師と囲碁を打ちて、同じ声に裏頭樂を唱歌にしけるが、面白く覚えける程に、内よりとみの事にて時光を召しけり。

御使ひいたりて、此の由を云ふに、いかにも、耳にも聞き入れず只もろともにゆるぎあひて、ともかくも申さざりければ、御使ひ、帰り参りて、
揺れ動いて 此の由をありのままにぞ申す。いかなる御いましめかあらんと思ふほど

に、「いと①なる者どもかな。さほどに樂にめでて、何事も忘るばかり思ふらんこそ、いとやむことなけれ。王位は口惜しきものなりけり。②行き

てもえ聞かぬ事」とて涙ぐみ給へりければ、思ひの外になむありける。
これらを思へば、此の世のこと思ひすてむ事も、
風雅の心 数奇はことにたよりとな
方便 「発心集」による
りぬべし。

(注) 笙、箏、箏、いずれも雅楽に用いる管楽器の名称。裏頭樂、雅楽の曲名。



- 次のうち、①に入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を書きなさい。
ア あはれ イ おろか ウ 不思議 エ 静か
- 本文中のA～Dの——をつけた語のうち、その動作を行っている人物の異なるものが一つだけある。その記号を書きなさい。
- ② 行きてもえ聞かぬの意味として次のうち最も適しているものを一つ選び、記号を書きなさい。
ア 行つて聞いてみたいものだ
イ 行つて聞いてみるまでもない
ウ 行つて聞くこともできない
エ 行つても聞かないでおこう
- ③ 思ひの外とあるが、帝(内)と使ひの者の考えのちがいを対比させて次のようにまとめた。□に入る内容を本文全体から読み取って、現代のことばで二十字以内で書きなさい。
時光の態度について、使ひは命令を聞かなかったことで、とがめられるだろうと思つたが、帝は□と褒めた。